

竹田市の 高齢者を支える地域づくり

大分県竹田市
高齢者福祉課

竹田市の概況

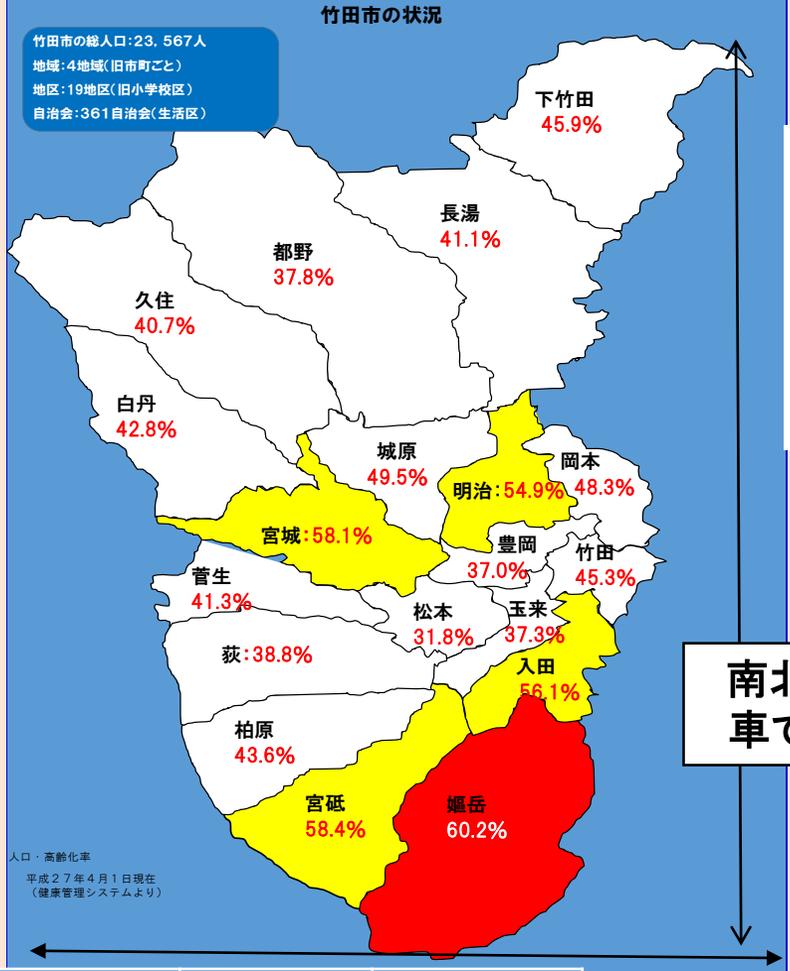
総面積 477.7km²

(H26.10末現在 大分県の統計から)

- ・人口 22,796 人
- ・世帯数 10,609 世帯
- ・高齢化率 43.6 %
- ・年間出生数 (平成25年) 124人

(H27.4月末現在)

- ・1号被保険者数 10,081人
- ・うち認定者数 2,159人
- ・認定率 21.4 %
- ・第6期介護保険料 5,500 円



南北35km
車で65分

南北35km
車で65分

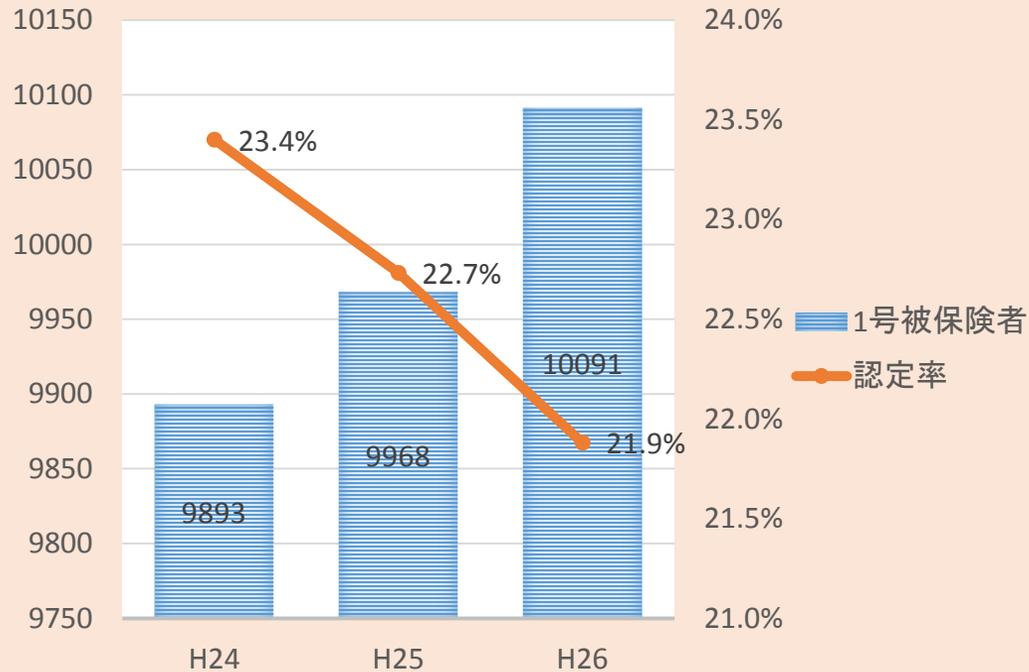
認定区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	413	328	385	353	242	271	167
割合	19.1	15.2	17.8	16.4	11.2	12.6	7.7

34.3%

68.5%

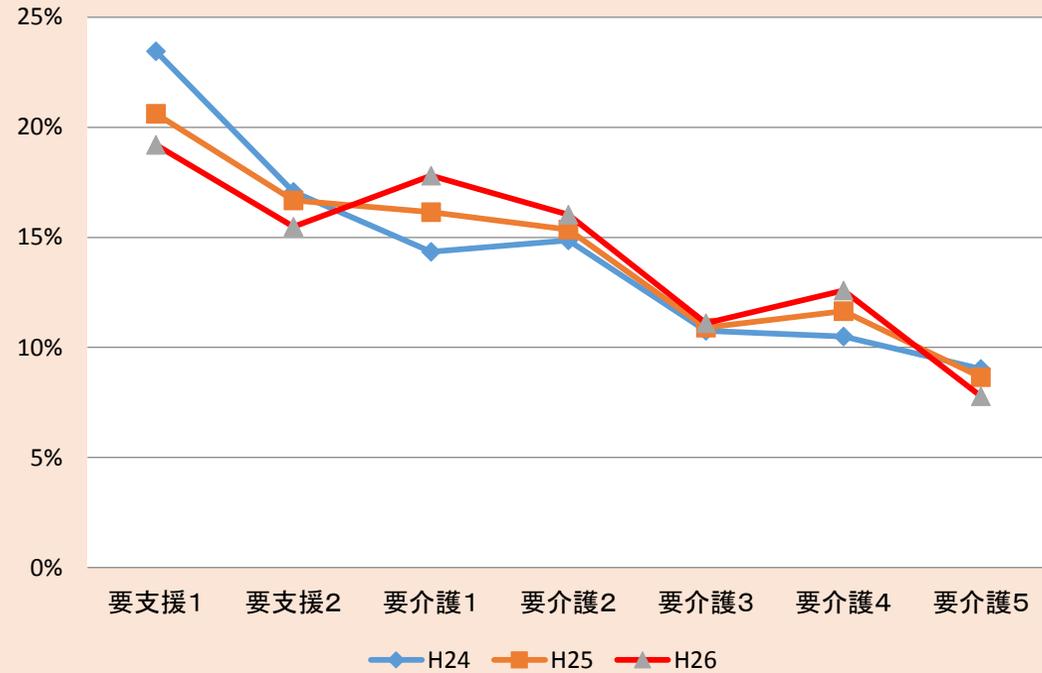
竹田市の介護認定状況

1号被保険者と認定率の推移



1号被保険者(65歳以上の高齢者)は増加しているが、認定率は下がってきている。今後は高齢者の伸びが横ばいもしくは減少傾向となる。

要介護度別認定率の推移



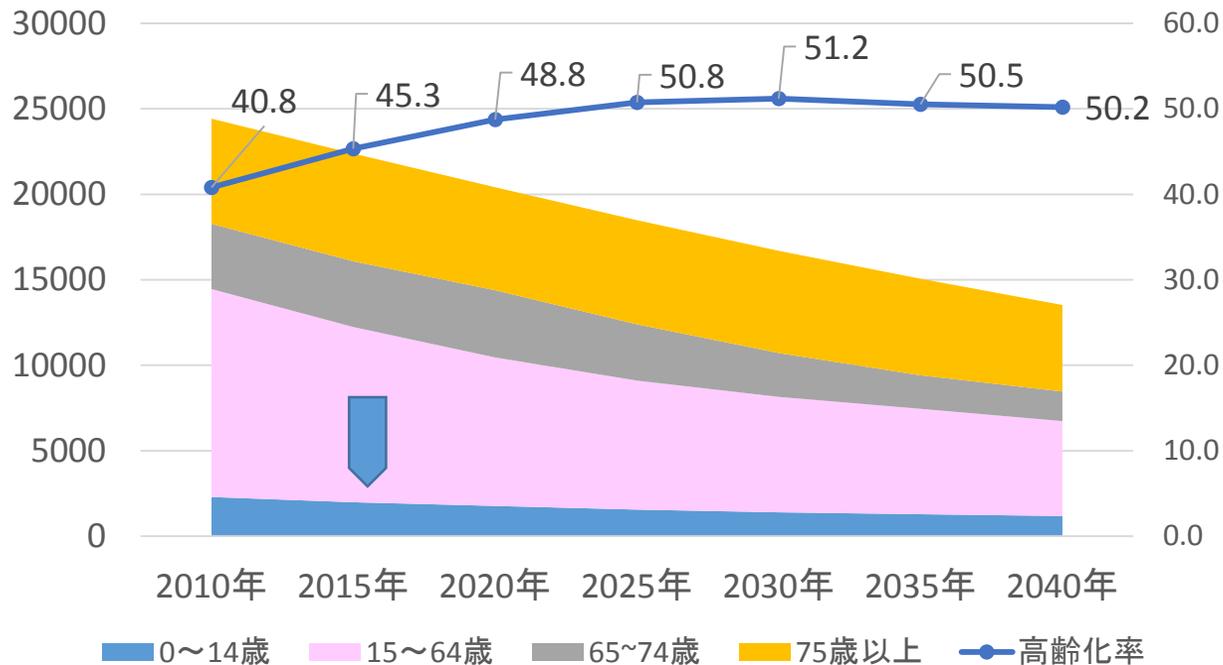
・要支援改善者の増加

→地域ケア会議開催による自立支援型ケアマネジメントの推進や、介護予防事業の効果によるものと思われる。今後も引き続き取り組みを強化していくことが重要である。

・要介護1の増加

→65歳以上高齢者のうち、認知症高齢者が増加傾向にあると思われる。

人口構成と高齢化率の推移

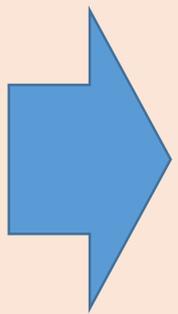


保険料(月額)の見通し



高齢者を支える15歳から64歳の生産年齢層は減少していく。

2040年には、
 生産年齢人口 5,558人で
 65歳以上 6,791人を
 1人当たり高齢者1.22人の
 高齢者を支えることとなる。



支え合う暮らし

竹田市がめざすもの

自立を支援

・ケア会議の機能向上

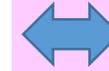
生活機能向上の取り組み

自らの健康づくり活動や社会参加

在宅で安心して暮らせる = 支える力がある地域づくり

生活支援サービスとコーディネート 市町村介護予防強化推進事業で実践

事業実施の過程で、必然的にコーディネーター、情報のやり取りは高齢者が支援



結果：第2層的な活動だった

1. 暮らしのサポーターとして養成されていた

2. 地域の実態調査を実施、高齢者の声を聴いている

3. サポートセンターの運営支援を行っていた

4. 高齢者から学ぶ姿勢が高齢者を支えている

5. チームで活動

6. 雇用され身分が確保されている

コーディネーター設置にともなう動き

1層は？
2層は？
誰をどこに配置？

生活支援の仕組みは？

どんな地域づくりを推進するか？

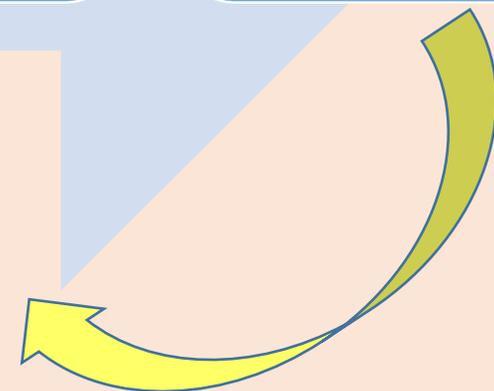
竹田市全体がめざす姿を共有

さわやか財団

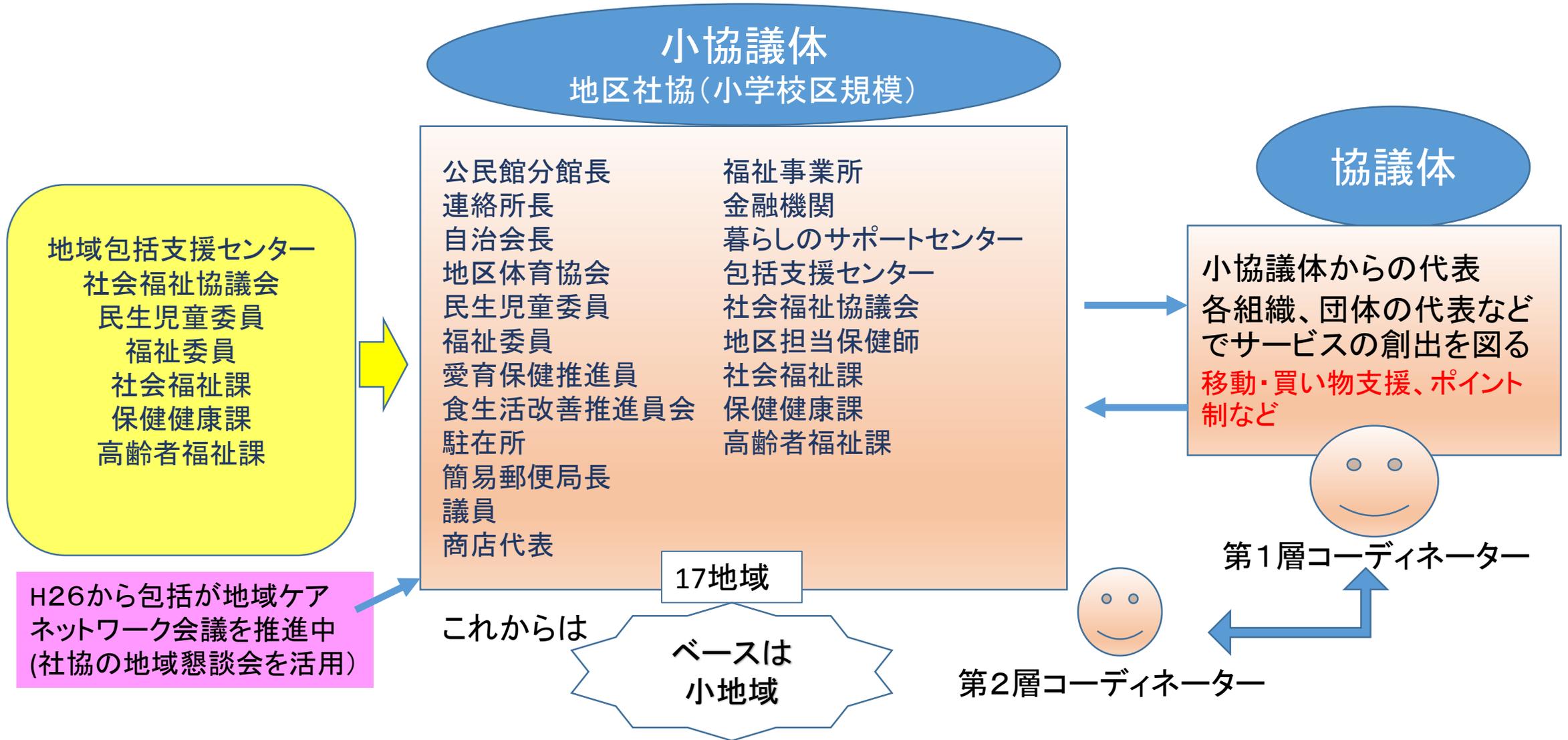
厚労省

協定

地域支援の在り方を考えるフォーラムを実施



協議体の位置づけとこれから



竹田市地域包括ケア会議の段階別関係図

竹田市介護保険事業計画策定委員会

竹田市地域包括支援センター運営協議会

個別事例のみならず、市全体の課題解決のために、地域住民代表と行政や専門機関、事業者等各種専門団体・機関が連携・協働し課題解決方法の協議や政策提言する会議

竹田市地域包括ケア連絡調整会議

適切なサービスの提供及び構築、ネットワーク化を図るため、関係機関が連絡調整を図る会議

竹田市高齢者あんしんネットワーク会議

(認知症の人を地域で支える仕組みづくり 徘徊時の早期対応から日常の見守り)

福祉担当関係機関合同会議

総合相談ネットワーク会議(担当者レベル)

竹田地域ケアネットワーク会議

菅生

城原

姫岳

27年度 入田・宮城・宮砥
(毎年新規に3地域で開催)

荻地域ケア
ネットワーク
会議

久住地域
ケアネット
ワーク会
議

直入地域
ケアネット
ワーク会
議

地域ケア会議
毎週1回(定例)

地域ケア会議
地域版[随時]

ケース会議
担当者レベル[随時]

生活支援体制整備

市単位での検討

5. 政策形成機能

4. 地域づくり・資源開発機能

生活圏域単位での検討

3. 地域課題の共有・解決機能

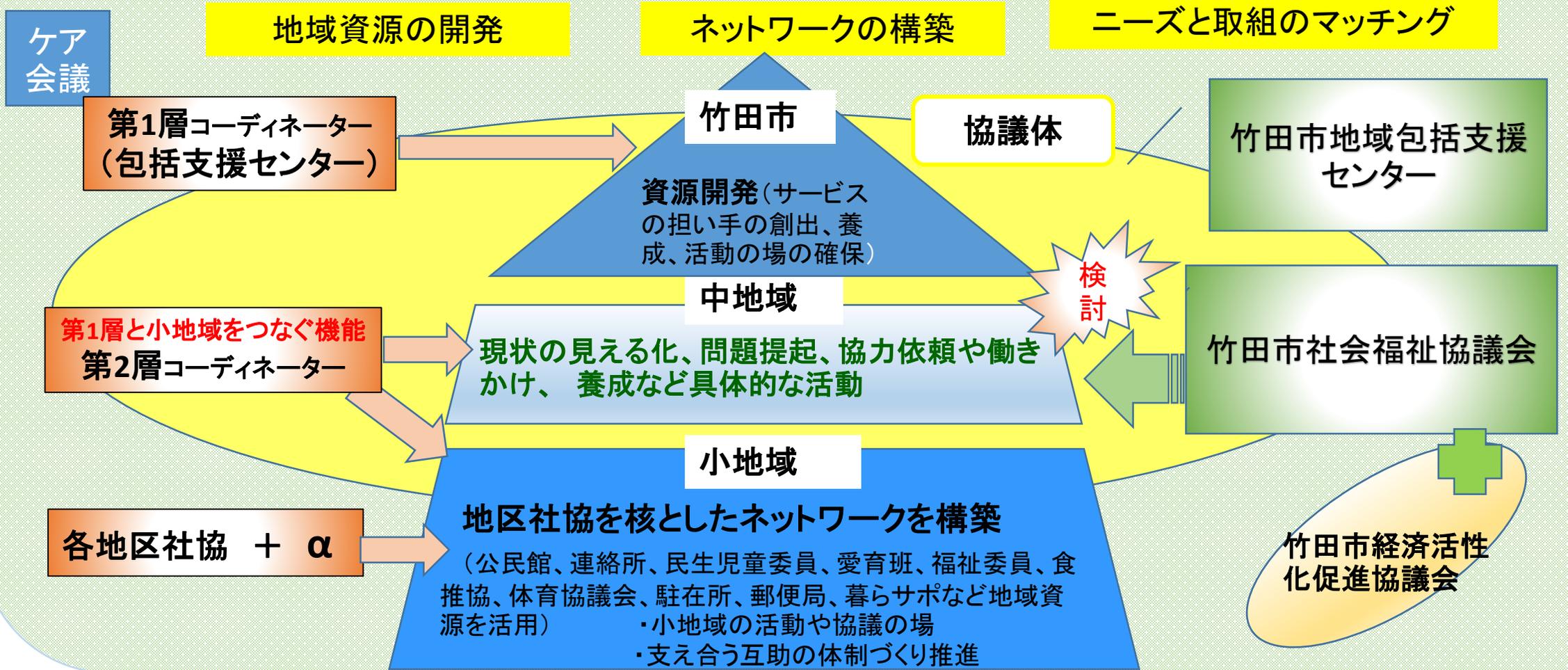
2. ネットワーク構築機能

個別ケースの検討

1. 個別の課題把握・解決ネットワーク機能

高齢者が自立した生活を継続できる地域づくり

高齢者の在宅での生活を支える重層的な支援のしくみ



竹田市の様々な地域づくりと連携、一体的なサービスを提供する体制づくりを推進

高齢者が自立した生活を継続できるサービス

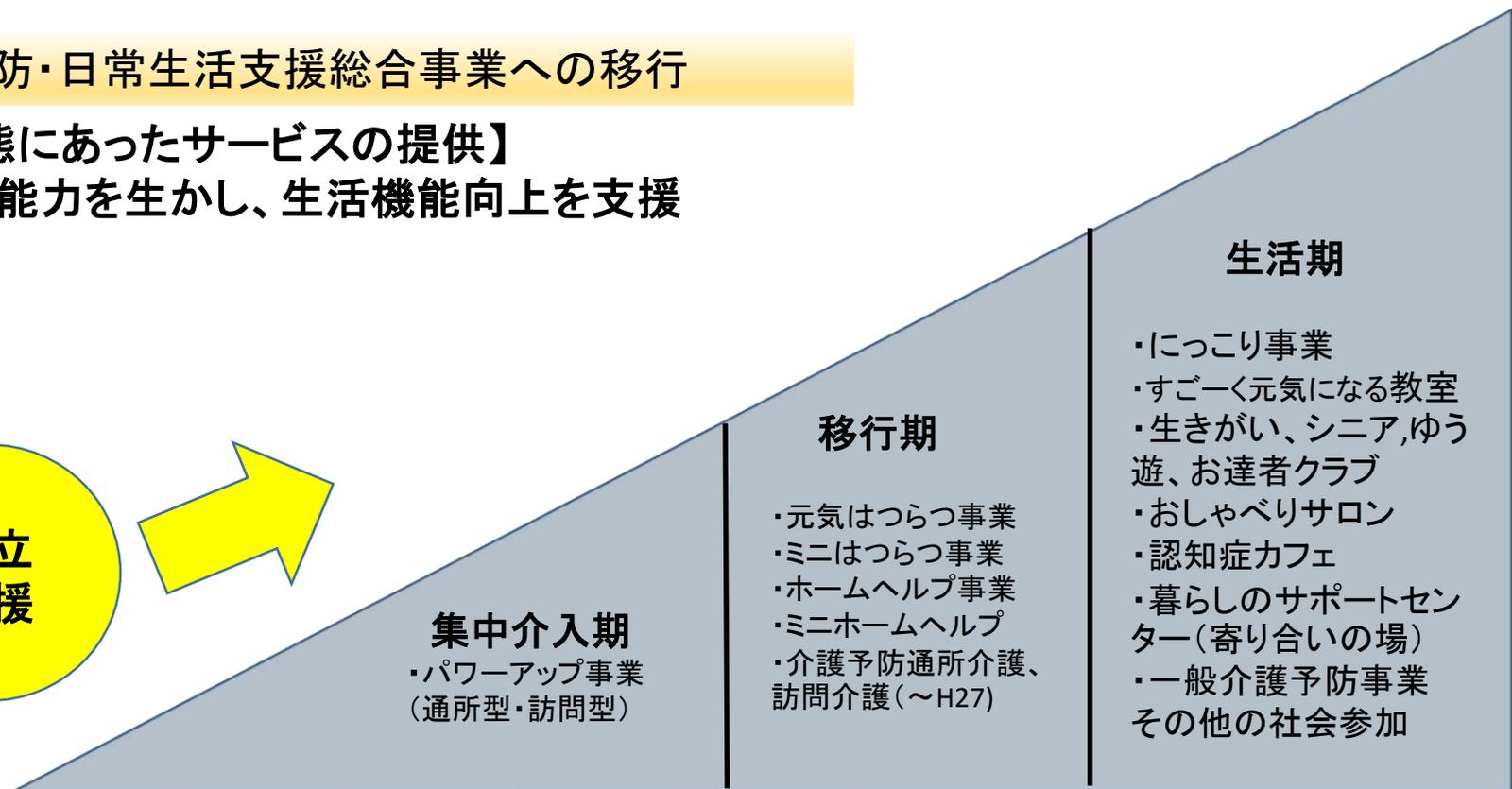
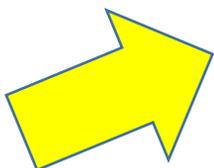
H27.4～介護予防・日常生活支援総合事業への移行

【本人の状態にあったサービスの提供】
本人の能力を生かし、生活機能向上を支援



地域や人

自立
支援



集中介入期

・パワーアップ事業
(通所型・訪問型)

移行期

・元気はつらつ事業
・ミニはつらつ事業
・ホームヘルプ事業
・ミニホームヘルプ
・介護予防通所介護、
訪問介護(～H27)

生活期

・にっこり事業
・すごく元気になる教室
・生きがい、シニア、ゆう
遊、お達者クラブ
・おしゃべりサロン
・認知症カフェ
・暮らしのサポートセン
ター(寄り合いの場)
・一般介護予防事業
その他の社会参加

【廃用症候群からの脱却】

【地域活動に参加できる
体力づくり、機能向上】

【地域の活動の
場へ参加】

高



【介護予防の必要性】

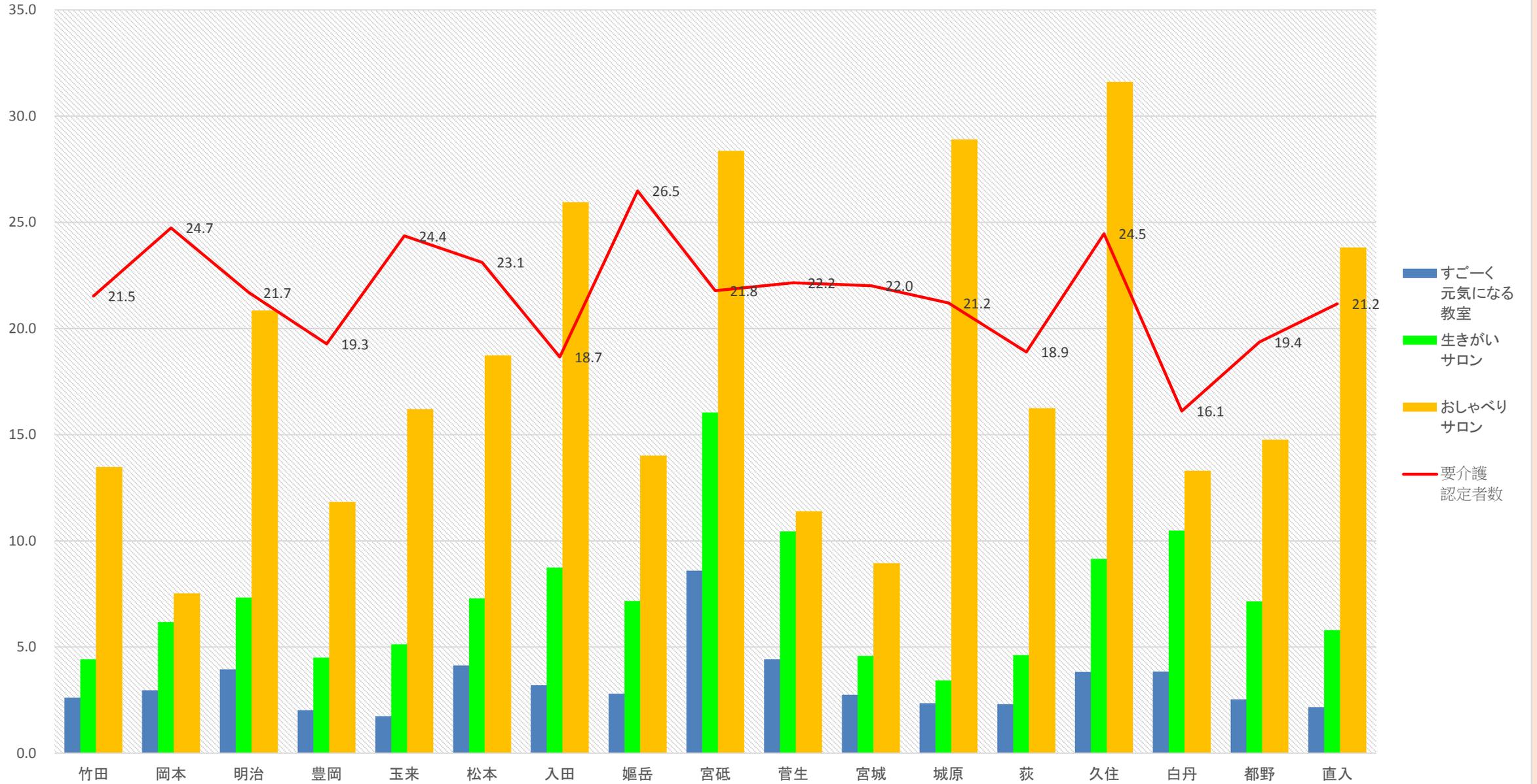
高



【元気度】

低

地区別社会参加の状況と認定率の比較



竹田市の地域包括ケア会議を活用した 地域包括ケアシステム構築のしくみ



竹田市の政策形成
介護保険計画や基盤整備計画への位置づけ

地域づくりや資源の創出や開発などの検討

地域課題の発見や把握

圏域地域ケア会議

ケース関係者

個別ケース地域ケア会議

竹田市地域包括支援センター
(高齢者支援センターつるかめ)

地域包括支援ネットワーク

代表者レベルの
地域ケア会議

専門職種レベル
の地域ケア会議

実務者レベルの
地域ケア会議



警察署

在宅医療連携拠点

保健所

社会福祉協議会

17地区社協

ボランティア



消防署



介護支援専門員

医療機関、薬
局、訪問看護

民間企業、NPO

介護サービス
事業所



暮らしのサポ
ートセンター

ご清聴ありがとうございました。
是非、竹田市へもお立ち寄りください。

ヒゴタイ